

令和元年度 長崎大学新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 在宅・地域医療実習

実習生 : 吉見聡美

実習先 : 藤瀬クリニック

阿保外科医院

ちひろ内科クリニック

安中外科・脳神経外科医院

実習期間: 令和元年 10 月 2 日 (水) ~ 11 月 27 日 (水)

実習生感想

令和元年 10 月 ~ 11 月にかけて上記 4 施設で在宅・地域医療実習をさせていただきました。

私は放射線科医として主に読影に従事しているため、患者さんと接する機会が特に少なく、基本的な診察手技だけでなく、患者さんとの対話にも緊張していましたが、ご指導いただいた先生方や快くお話を聞かせて頂いた患者さん・ご家族の方々のおかげで有意義な実習をすることができました。

① 藤瀬クリニック

計 3 日間実習させていただきました。初回の実習ということで、在宅実習に関しての知識も全くない状態で同行させて頂き、診察以外にも様々なことを教えて頂きました。癌患者さん以外にも先天性の奇形がある小児や通院が困難な高血圧患者なども診療しており、訪問診療の必要性を感じました。

特に印象深かったのは HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の患者さんで、歩行障害・排尿障害があり臀部に褥瘡をきたしている方でした。毎日状態が確認できる入院と違い、週毎もしくは隔週での診察となる訪問診療のため、訪問看護と連携し褥瘡の状態なども写真データで共有しているとのことでした。また、身体所見を共にとらせていただいた際に、藤瀬先生より左肺の呼吸音が弱く肺炎や気胸を起こす可能性があり注意して経過をみる必要があるとの指摘がありました。後日お話を伺ったところ肺炎になりかけていたとのことで、訪問診療により重症化を防ぐことができたという貴重な現場を体験させてもらうことができました。

② 阿保外科医院

計 3 日間の実習をさせていただきました。今年はインフルエンザの流行が早く、通常の診察に加え、様々な患者さんのご自宅や施設を回り、予防接種をさせていただきました。担当している患者さんの中でも特に緊急度の高い患者さんからできるだけ早く行えるようにと予定が組まれており、患者さんの安心にも繋がっていると感じました。癌患者以外にも脳梗塞や低酸素脳症後の患者さんなども訪問し、自宅で転倒した患者さんの外傷などもすぐに行って処置を行っていました。

移動中にも患者さんからの問い合わせがあり、24 時間 365 日対応の大変さを感じました。そのため訪問看護師さんとの連携が特に大事だということを教えて頂きました。また、訪問薬剤師さんが介入することで粉碎しやすい薬剤や溶かしやすい薬剤などを用いることができ、ご家族の負担をなくすことができたとの経験も話されており、様々な職種との連携がより重要であると学びました。

阿保先生はタブレットでの電子カルテを用いた訪問診療を行われており、カルテ記載だけでなく、処方と薬局への FAX までその場で行なっており、このような新しい形を取り入れることでスムーズな診療ができているのだと思いました。



③ ちひろ内科クリニック

計 3 回の実習をさせて頂きました。土屋先生は一人一人にじっくり時間をかけてお話をされているという印象でした。患者さんだけでなく、ご家族ともよくお話をし、精神面にも気を配っておられ、このような気遣いがより良い信頼関係につながっているのだと感じました。

実習中には点滴や胃瘻交換もさせて頂き、訪問診療でも様々な医療行為が行えることに驚きました。末期癌の患者さんへの点滴をした際に、これをしてもらえると楽になるといった患者さんの言葉を聞き、自宅でもこのような医療行為ができることで安心して過ごすことができるのだと感じました。



また、土屋先生は緩和医療についても熱心に取り組んでおられ、アドバンス・ケア・プランニングといった終末期になる前から患者さんやご家族にどのような最期を迎えたいか考える機会を作るという取り組みをされていました。出来る限り患者さんの希望に沿った医療をという考えが伝わってき、在宅医療の在り方を考えさせられました。



④ 安中外科・脳神経外科医院

安中先生はとてもたくさんの患者さんを抱えており、とても精力的に訪問診療をされていました。大きな診療バッグを持ち、坂道の多い地域を回る先生の姿は、これぞ長崎の訪問診療という印象でした。実習は半日という短い期間でしたが、限られた時間により多くの患者を診察できるようにと行動されており凄いと感じました。



今回、4人の先生方にお世話になり、様々な訪問診療の在り方を学ぶことができました。

長崎は坂も多く、家が山の斜面にも建ち並ぶという訪問診療を行うには大変な環境にありますが、今後その需要は増してくると思われれます。最期までの時間を自宅で過ごすことを望む患者さんに対し、その希望に沿った医療を提供できるようにするためにも今後の訪問診療の発展は欠かせないことだと感じました。

最後になりますが、お忙しいところ実習を引き受けていただいた藤瀬先生、阿保先生、土屋先生、安中先生、また各スタッフの皆様に感謝申し上げます。

<実習報告会>

